

女子学生の私服に対する意識と社会的態度との関連性

大阪女学園短大 ○ 増田依子

山口女大家政 渡辺敬子

目的 私服は、着付けが複雑であること、高価であること、着用すると身体の動きが制限されること、などの理由から私服に対してあまり好意的でない人がいる反面、私服を着用する機会があまり多くても、私服に対して好意的な態度をもっている人が多い。シニアは、シニアの私服に対する好悪などのような社会的態度と関連しているかを検討した。

方法 私服に対する意識の測定は、私服に対して好意的な意見、非好意的な意見をこの項目作成し、5段階評定法で行った。また、社会的態度は、加藤隆勝らの作成した尺度を用いて測定した。この尺度は、感情的・娯楽指向的(下)態度、伝統指向的(下)態度、革新指向的(上)態度、合理的・個人主義的(上)態度から構成されている。調査は昭和62年9月、女子学生208名を対象に集団で実施した。

結果 私服に対する意識測定尺度の項目への評定値を個人別に計算して、私服について個人得点を算出した。この得点の高、中、低にそれぞれ評定者を私服に対して好意的、中立、非好意的グループに分割した。また、下、上、上、下の各社会的態度についても、各態度を構成する8項目への評定値の合計得点を基にして、各態度を強くもっている、中程度、弱くもっている。の3段階に評定者を分け、私服に対する意識とのクロス分析を行った。その結果、4種の社会的態度のうち、下態度( $\chi^2 = 15.97^{**}$ )、上態度( $\chi^2 = 10.22^{**}$ )と関係していることがわかった。